

コンサルテーション事業報告

事業の名称	STEM 教育の 教室アセスメント	事業代表者	有本 昌弘
対 象	初等中等教育の研究主任や管理職、時に高等教育関係者		
目 的 と 内 容	STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 教育等に関する教育関係者との勉強会・研究交流会を実施する。時代の変化や組織の硬直化により、多くの学校が思考・判断・表現など観点別評価の方法と実践で困難に直面している。そこで、カリキュラム・アセスメントに関して専門的立場から、フィードバックや学習機会、動機づけなど、切り口をいくつか用意して、システム思考を取り入れ、学びの個人化（パーソナライゼーション）に関する国内の研究知見や動向を提供する。さらに、政策的にも、海外との STEM 教育のコラボをもとに、SDGs (Sustainable Development Goals)達成担い手のESD (Education for Sustainable Development) プラットフォームの構築による知見を蓄積していくさらにユネスコ、OECD やAsian Society, Pearson などと交流を図る。		
実 施 日 および 実 施 回 数	① 実施日： 2~4 回程度 ② 実施回数：（月当たり 4 h）		
実 施 場 所	オンラインならびに対面（教育学研究科、東北大学東京分室）		
主 な ス タ ッ フ	橋本正裕（仙台市教育委員会） 能美佳央（秋田県教育委員会） 北島茂樹（明星大学）	人 数	
		8 名	
ス タ ッ フ の 活 動 内 容	大学工学部・高専の PBL、中学校技術家庭、高校工業、小中高数学、高校理科など、各専門分野・領域から、STEM 教育の勉強会を行う。適宜、下記学校の訪問や、研究主任や総合的な学習の評価担当者との研究交流会を持つ。		

事業実施内容	○仙台市立仙台工業高校では、学校評議員として、年2会合に出席するとともに、学校での授業観察を行った(7/27)。2, 3年時生徒から質問紙調査によるデータを収集する(11/30)。 ○宮城県立岩沼高等学園でのループリックアセスメントについて、全教職員対象のワークショップ及び講演会を持った(8/4,11/11)。 ○宮城県立多賀城高校(ユネスコスクール、スーパーサイエンスハイスクール)の取り組みにおいて、SSH運営指導委員として、今後のアセスメント手法を多賀城高校教員と共同で意見交換した(6/30, 2/12)。1/22にも、直接出向き、具体的なアセスメント手法について、管理職、主幹教諭、評価特設委員会の担当教諭と打ち合わせを行った。 ○県外では、秋田市立御所野学院高校から、システム思考導入による生徒の変容データ提供を受け吟味を行ったものを、延期された世界教育学会(WERA)での発表を次年度行うべく、打ち合わせを行った(11/20)。 ○福島県公立会津大学震災復興センターとの連携を試みた(9/9)。さらに、福島県郡山市にて、「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2020」に出席、人脈をつくった(11/28)。 ○その他の相談活動 SDGs に関して、再生可能エネルギーや生物多様性の焦点を当てて学校視察及び相談活動(秋田県角館高校、大曲農業高校)について三菱財団に提案書を作成・提出した(1/13)。 ○富山県富山市の未来都市環境政策課による学校支援に接点をもつべく、情報収集と研究の打ち合わせを行った(9/2)。 ○ResearchGate やAcademiaに英語論文をアップしていたことから、日本政府が支援しているエジプトからの、STEAM教育カリキュラムのアセスメントについての問い合わせと大学院留学の相談を受けた。 ○現在ある、既存の HP(jafl.com)を、先端としてふさわしいプラットフォームを行う検討を行った。
---------------	---